

相寄りて四戸の民家暮らすのみ黒滝部落雪に埋もるる

(R)

大石田の雪・・・

雪には色々な表情があります。「♪上見れば虫っこ、中見れば綿っこ、下見れば雪っこ。」と、東北の雪を言い当てているわらべ歌ですが、この辺りの大雪は音もなく灰を撒くかのように積もります。

雪の朝は暗いうちから「ガガガガ」と町の大型除雪車が出動。「ダッダッダダダ」と家庭用除雪機。「ザクツザクツ」とスコップ。「ザツギュー」とスノーダンプ。「ギューギュー」と長靴が雪を踏みしめる音。大石田の雪は案外にぎやかです。昼、寒さが緩んでくると屋根では「ザツザツ」と小刻みに雪の重みがトタンを鳴らし、「ザー、ドツドツドドー！」とまとまった雪が落ち、また雪片付け。町場ではこんな風に雪が降ろせない家も多く、人手をかけて雪を降ろします。排雪場は川の側に設けられます。夕方にはまた雪かき。町には家々から出た雪を時間を決めて側溝へ流しいれて排雪する『流雪溝』の仕組みがあります。

次年子には昔から家々に山の水が入る“曳き水”があります。洗い物や野菜の泥落としと便利なものですが、なにより冬場、敷地や道の雪を消すのに役立ちます。池(棚池^{たなげ})を作って屋根の雪を落とすなど、三メートルにもなる積雪にも心強い、葉山からの自然の恵みと雪国で暮らす人々の工夫です。

・・・

閉塞く冬となる(そらさむくふゆとなる)

12月7日～11日頃

冬の準備もようやく落ち着き、庭先には雪を消すためのホース等を取り付けました。本格的な冬が到来する備えです。外に干してある柿も、新聞紙に包み室内に下げ白い粉をふかせます。「お日さまに当たった食べ物は冬の時期に食べると体によい。」と大祖母(ばばちゃん)の言葉を思い出しました。(き)

熊穴に蟄る(くまあなにこもる)

12月12日～12月15日頃

雪が積もり周りは真っ白。色彩のない庭に赤い実をつけた南天がひととき映えています。難を転ずるということから葉は赤飯の上に飾ったもんです。花言葉は“福を成す”“良い家庭”とあるように真赤な実に元気ももらいます。

愛宕町の門前に見つけた南天の赤い実は冬の青い空に輝いていました。(と)

鰻魚群がる(さけむらがる)

12月16日～12月20日頃

空気がキーンと凍てつく寒さの朝、ブルドーザーの音で一日が始まる。特に高校生のいる家では駅まで車で送るため車庫の除雪は欠かせなく、町は朝から活気にみちている。これも大石田の風物詩。大雪は詰練だけど、時折見せる青空の日は“山々の美しさ”“白い雪に南天の実の鮮やかさ”にホッとします。(み)



2014.12.15 図書室より雪晴れ

読書会だより⑨

たいせつ

大石田の大雪のころ

七十二候より

大石田町立図書館

雪は天からの贈り物。雪の降る音は「もつもつ」「もろもろ」「の

そのそ」「ぼたぼた」、名前もみぞれ・牡丹雪・綿雪・粉米雪・吹雪・

淡雪・なごり雪、たくさんあります。今日はどんな雪でしょう。

「大雪は豊作の端(しるし)」
おおゆき 「雪は五穀の精」

故事ことわざより